タイトル(14p・MSゴシック)

―サブタイトル(12p・MSゴシック・全角ダッシュ)―

（12p一行空け）

姓　名(12p・MSゴシック)

姓と名の間は全角１文字空け

投稿時に姓名は記載しないでください

（12p一行空け）

要旨（10p・MSゴシック）

要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本文要旨本要

（10pt・MS明朝，英数字は10pt・Times New Roman。要旨本文は400字以内，英文の場合は200語以内。）

（10p・一行空け）

キーワード（10p・MSゴシック）　△△△，△△△，△△△，△△△，△△△，△△△

（1語以上5語以内・10pt・MS明朝，英数字は10pt・Times New Roman，全角「，」で区切る）

（10p・一行空け）

１．節タイトル

本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本（1）。

（10.5p・一行空け）

（1）例文例文例文（例文は頭から全角2字分下げる）

（10.5p・一行空け）

本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文（庵2012：40）。（10.5p・MS明朝／英数字はTimes New Roman）

（10.5p・一行空け）

２．節タイトル

本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文（金澤編2014）。

（10.5p・一行空け）

表1 〇〇〇〇（10p・MSゴシック）

| 表の中の文字はMS明朝／英数字はTimes New Roman・原則8〜10p |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |

（10.5p・一行空け）

本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文文本文本文本文本文本文本文本文（Langacker1991）

（10.5p・一行空け。ただし，「２．」と「2.1」の間に本文がない場合は行を空けない。）

2.1 見出し（10.5p・MSゴシック・節番号は半角。見出しとの間は半角1字空け。）

本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文。

（10.5p・一行空け）



図1 ○○○○(10p・MSゴシック)

（10.5p・一行空け。ただし，本文がページの頭に来る場合，行空けは不要。）

本文[[1]](#footnote-0)本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文。

（10.5p・一行空け）

2.1.1 小見出し(10.5p・MSゴシック・節番号は半角。小見出しとの間は半角１字空け。)

本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文。

（10.5p・一行空け）

引用引用引用引用引用引用引用引用引用引用引用引用引用引用引用引用引用引用引用　引用引用引用引用引用引用引用引用引用（頭から全角3文字分下げる）

（10.5p・一行空け）

本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文本文。

（10.5p・一行空け）

（2）例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文（頭から全角2文字分下げる）

（3）例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文例文

（10.5p・一行空け）

謝辞(10.5p・MSゴシック。必要に応じて記載。投稿時に謝辞を入れないでください。)

謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞謝辞。

（10.5p・一行空け）

参考文献(10p・MSゴシック)

※参考文献記載例
言語別に分けて記載してください。なお，「〇〇語文献」等の記載や行空けは不要です。記載例はテンプレートの本文とは関係ありません。

日本語学術論文

庵功雄（2012）「文法シラバス改訂のための一試案―ボイスの場合―」『日本語／日本語教育研究』3，ココ出版，pp.39-56.　（2行目以降は行頭から全角2文字分下げる。）

渡辺学（1995）「ケド類とノニ―逆接の接続助詞―」宮島達夫・仁田義雄（編）『日本語類義表現の文法（下）複文・連文編』くろしお出版，pp.557-564.

日本語単行本

庵功雄（2013）『日本語教育、日本語学の「次の一手」』くろしお出版.

欧文学術論文

Schegloff, E. A., Jefferson, G. and Sacks, H.（1977）The preference for self-correction in the organization of repair in conversation. Language, 53(2), pp.361-382.

欧文単行本

Brown, G. and Yule, G.（1983）Discourse analysis. Cambridge University Press.

韓国語学術論文

임동훈（2001）「–겠-의 용법과 역사적 해석」『국어학』37，국어학회，pp.115-147.

韓国語単行本

남기심・고영근（2007）『표준국어문법론』개정판，탑출판사.

中国語学術論文

井上优・黄丽华（2007）“从否定形式看汉语与日语的体”《日本现代汉语语法研究论文集》，北京语言大学出版社，pp.32-45.

中国語単行本

邢福义（2002）《汉语语法三百问》商务印书馆.

（10.5p・一行空け）

参考ウェブサイト（10p・MSゴシック）

※参考ウェブサイト記載例

独立行政法人日本学生支援機構（2023）『日本留学生試験実施結果一覧』
（https://www.jasso.go.jp/ryugaku/eju/about/data/result/index.html）（2023年8月1日確認）

（ホームページアドレス，確認日を記載する。リンクは解除する。）

（10.5p・一行空け）

調査資料（必要に応じて記載。10p・MSゴシック）

（参考文献の記載基準に従う）

（10.5p・一行空け）

用例出典（必要に応じて記載。10p・MSゴシック）

（参考文献の記載基準に従う）

1. [↑](#footnote-ref-0)